

とまどいながらも六年



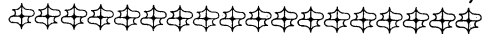
星 恵子

随 想

六年前、私は、旭田小学校に養護教員として赴任しました。まったく初めての土地で、教員生活を送る不安は胸いっぱい広がりました。でも、それを払しょくしてくれたのが、人なつこい児童たちと、校長先生をはじめとする諸先生がたの温かいまなざしでした。また、土地に対する不安も地域の人々の心の温かさで、しだいに解消されてきました。

学校は、国鉄会津線榎原駅から車で十分、塩生地区の閑静な場所にあります。この学校・児童を見たとき、「ようし、この子供たちのために精いっぱいやってみよう」と決意を固め、新任養護教員としてのスタートをぎりぎりまで。

旭田小学校には三つの分校があり、



全員で二百二十名の児童が自然の懐に抱かれ、楽しい学校生活を過ごしていきます。最初は、児童や家庭環境、地域の実態もよくわからないので、とまどいや、あせりの連続で、慌ただしい毎日でした。それに、三つの分校をかかえて、本校と分校の連絡や、保健指導の面で、どのようにやってよいのか悩んだこともたびたびありました。

養護教員の一日の仕事の始まりは、健康観察からです。今日は、欠席した子はいるかな、具合の悪い子はいないかな、と各教室をまわって調べて歩きます。旭田小は、欠席児童やけがの発生がそう多くありません。ただ、朝から「先生、頭が痛い」「腹が痛いの」といって保健室を訪れる児童がたまにまいます。それに、朝会のわずかの

時間に貧血によって倒れたり、体育の時間や日常の遊びで、ちょっとしたことでも捻挫や骨折をする児童も見られます。また、「きのう家で手を切った」とか「家でハチに刺された」などという、家庭に帰ってからのことで治療にくる子、少しの切傷、擦過傷でも、すぐに治療にとんでくる子もいます。

このような場合の処置の仕方など、最初は、どのようにすればよいのか悩んだりもしました。今では、その時々「朝ごはん食べてきたの」「けさはトイレに行ってきたか」などと、理由を聞いたり、いろいろ話をしたりして、できるだけ子供たちの生活のよろすを聞くようにし、あまり簡単に手当てだけをするとはしないように



「ハイ、あ〜ん」歯は大切にしようね

していきます。

養護教員として幸せを感じるのは、子供たちから、「先生、きのうけがしてなおしてもらったところ、きょうはだいぶ良くなったよ」と登校して、まず先に保健室にはがらかな顔を見せてくれることです。そのときの喜びは何とも言えません。

六年間の仕事を続けてきて、今でも心に強く残っているものがあります。また、養護教員になりたてのころ一人の児童の足にサッカーのゴールゲートが倒れ、けがをしたときのことです。あわてて病院に連れていったら、幸いにはいたしたこともなくすみました。子供たちのけがは、いつ、どんな場所で起こるかかわからないということ深く自覚させられました。

児童が安全に楽しく生活できるように養護教員として、環境衛生の維持に努め、学校環境の安全を図るため、巡視活動を適切に行い、観察を強化し、子供らの健全な成長を見守っていきたいと思ひ、実践活動を続けているこのころです。

ほんとうに月日のたつのは早いもので、なにもしないうちに六年も過ぎてしまいました。これを機に、児童の実態や地域の特徴を生かした保健指導を効果的に進めるため、もう一度、自身を見つめなおし、子供たちのために、精いっぱい努めたいと思っています。

(下郷町立旭田小学校養護教諭)